

稲作情報 No.4

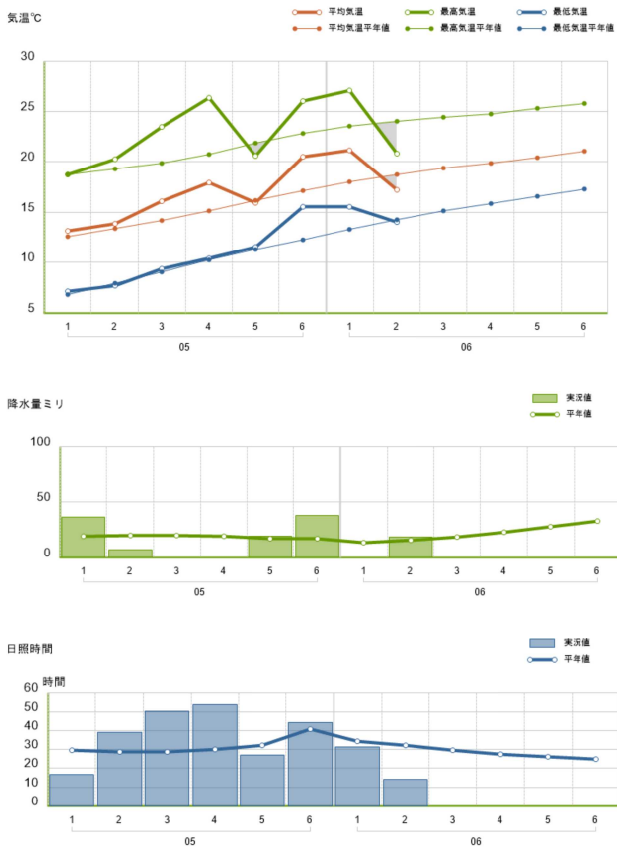
発行日: 令和8年6月12日
発行: 仙北地域振興局農林部農業振興普及課

～適切な水管理により分けつ発生を促進しましょう～

1 気象経過と今後の気象予報

これまでの気象経過(アメダス大曲)

図1 半月ごとの気象経過(秋田県農業気象システムより引用)



向こう1か月の気象予報(6/13~7/12)

- ・仙台管区気象台より令和8年6月11日に発表された1か月予報によると、暖かい空気が流れ込みやすいため、向こう1か月の気温は高くなる見込みです。
- ・平均気温は高い確率が50%で、週別の気温は1週目(6/13~6/19)が高い確率が40%、2週目(6/20~6/26)が高い確率が50%、3~4週目(6/27~7/10)は高い確率が50%です。
- ・降水量は東北日本海側で平年並の確率と多い確率がいずれも40%です。

図2 東北地方 1か月予報(出典:気象庁HP)

気温、降水量、日照時間の各階級の確率 (%)					
気温	東北日本海側	向こう1か月 06/13~07/12	20	30	50
		1週目 06/13~06/19	20	40	40
		2週目 06/20~06/26	20	30	50
	東北太平洋側	3~4週目 06/27~07/10	20	30	50
		向こう1か月 06/13~07/12	20	30	50
		1週目 06/13~06/19	20	40	40
	降水量	2週目 06/20~06/26	20	40	40
		3~4週目 06/27~07/10	20	30	50
		東北地方 向こう1か月 06/13~07/12	20	40	40
日照時間	東北地方 向こう1か月 06/13~07/12	30	40	30	

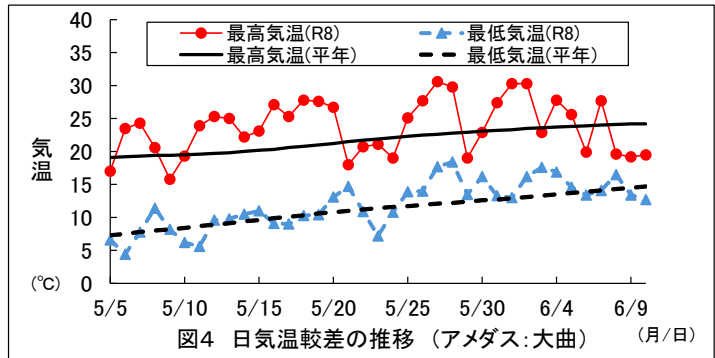
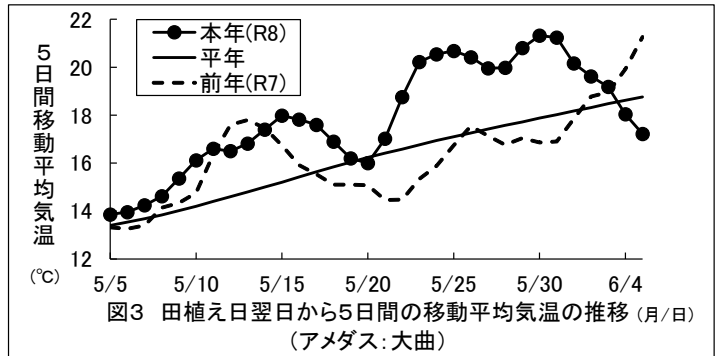
■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

2 作業進捗状況および生育概況

仙北管内の田植え作業の盛期は5月23日(平年5月24日)、終期は5月31日(平年5月31日)でした。6月10日の定点調査結果(あきたこまち、10地点平均)は、草丈は24.5cm(平年比99%)、茎数は137本/m²(同比101%)、葉数は6.1葉(同差+0.2葉)といずれも平年並でしたが、稲の生育にはほ場間差が見られました。

5月は好天が続いたため、田植え日翌日から5日間の移動平均気温の推移は平年より高く経過しており、苗の活着に好適だったと考えられます(図3)。

また、気温の日較差の大きな日が続いたことで、分けつの発生は促進されたと考えられます(図4)。



3 当面の技術対策

(1) 分けつ発生を促進させる水管理の徹底

茎数の少ないほ場では6月中に有効茎を確保するよう、分けつ発生を促進するための浅水管理を行いましょ。

分けつの発生は日平均水温23~25°Cで、気温の日較差が大きい場合に促進されます。水温と地温を高め日較差を大きくするため、かん水は水温の低い早朝に短時間で行い、日中は止水で浅水管理とします。

本年は、表層はく離やアオミドロ等が発生しているほ場が多く見られます。

これらの発生によって地温や水温の上昇が妨げられ、生育抑制に繋がることから、対策として、気温の低い早朝や雨の日に水の入れ替えを行いましょ。

この他、異常還元によるワキが発生しているほ場では一時的に落水(数日間)してガス抜きをすることで、稲体を健全に保ちましょ。

(2) 目標茎数を確保したら中干し開始

あきたこまち(目標収量570kg/10a)の目標穂数は415本/m²です。目標穂数と同程度の茎数(70株/坪の場合 約20本/株、60株/坪の場合 約23本/株)を確保したら中干しにより、無効分けつの発生を抑制します。

中干しの実施期間は7~10日程度とし、田面に亀裂が1~2cm入り足跡が付く程度にしましょ。また、落水しにくいほ場や異常還元ほ場では中干しに併せて溝切り等を行い、排水を図りましょ。

幼穂形成期に土壤水分が不足すると1穂粒数の減少を招くので、中干しは幼穂形成期前に終了しましょ。また、中干し後の急激な湛水管理は根を傷める可能性があります。間断かん水を行い、土壤へ水分と酸素を交互に供給しましょ。

(3) 葉いもちの防除について

葉いもちの感染時期はやや早く、感染量はやや多い予報です。

補植用余り苗は、いもち病が発生しやすく周辺ほ場への伝染源になります。ほ場に放置されている余り苗は、直ちに泥に埋めて処分してください。



葉いもち防除として箱施用剤または側条施用剤を使用していないほ場では、感染苗の持ち込み等により早期に本田で発病する可能性があります。

葉いもち防除として箱施用剤や側条施用剤を使用しなかった場合は、オリゼメート粒剤(2kg/10a)を散布します。散布時期は移植栽培では6月15日頃(6月12～18日)、直播栽培では6月23日頃(6月20～25日)に遅れずに散布してください。

また、水面施用剤は湛水状態で田面に均一に散布し、散布後4～5日は入水せず、7日間は落水やかけ流しは行わないでください。

(4) 斑点米カメムシ類の防除対策

斑点米カメムシ類(第1世代)の発生時期は早く、発生量は平年並の予報です。

繁殖地となる農道や畦畔、休耕田、雑草地などの除草は6月上旬から稲が出穂する15～10日前まで数回行いましょう。

主要種のアカスジカスミカメは、ホタルイ等のカヤツリグサ科雑草やノビエの穂に産卵するため、これらの雑草が水田内で繁茂すると多発します。一発処理除草剤の処理時期の遅れなどにより水田内に雑草が多い場合は、水田内の雑草をよく観察し、草種に応じた中・後期除草剤を適期に散布してください。

※病害虫の発生状況については、秋田県病害虫防除所が令和8年5月26日に発表した令和8年度農作物病害虫発生予察情報 第2号(6月予報)を引用。

～秋田米栽培情報発信LINE始めました！～

水稻栽培に関する情報を発信しています。

秋田県農林水産部水田総合利用課

<https://www.pref.akita.lg.jp/pages/genre/suiden>



友達追加は
こちらから